



3 学年 小中交流会を終えて

昨日、3年生は小中交流会のため豊浦小学校を訪問しました。20名の生徒がそれぞれ1～6年生の学級に分かれ、授業のサポートをしたり、一緒に活動したりしながら交流を深めました。

最初は緊張した様子も見られましたが、時間がたつにつれて表情も和らぎ、それぞれが自分らしさを発揮しながら活動することができました。小学生に優しく声をかけたり、積極的に関わったりする姿を見て、大変頼もしく感じました。

その一方で、この経験からさらに学んでほしいこともあります。いつもと違う環境では、普段通りの力を発揮したり、それ以上のことに挑戦したりすることは簡単ではありません。しかし、そのような状況だからこそ、勇気をもって自分を表現したり、本気で物事に取り組んだりすることが、本当の意味で自分の力を伸ばすことにつながります。

このような力は、これから始まる運動会練習やさまざまな行事の場面でも求められる力です。昨日の自分自身や学年の姿を振り返り、できたことに自信をもつとともに、課題にも目を向けながら次の成長につなげてほしいと思います。



英語弁論 大健闘！！

9月1日、中央公民館で開催された英語弁論大会に、本校代表として鈴木心乃花さん、今野聖華さんが出場しました。二人は自ら挑戦を決意し、夏季休業中も練習を重ねながら、英語による表現力の向上に努めてきました。

大会では、身振り手振りや声の強弱を効果的に使い、聴衆に伝わる発表を堂々と披露しました。結果は惜しくも入賞には届きませんでしたが、これまで積み重ねてきた努力を十分に発揮し、やり遂げた達成感に満ちた表情が印象的でした。

一歩踏み出して挑戦した経験は、二人にとって大きな成長の機会になったことと思います。今後のさらなる活躍を期待しています。



あいさつについての考察

最近、職員室では生徒たちのあいさつが話題になることがあります。自分から進んであいさつをする人、あいさつをされて返す人、相手の目を見てあいさつをする人など、その姿はさまざま

です。

あいさつの起源には、原始時代に「私は敵ではありません」「安心してください」という意思を伝えた行動があると言われています。つまり、あいさつには相手への敬意や思いやりの気持ちが込められているのです。

「おはようございます」「こんにちは」「さようなら」といった言葉は、人と人とのつながりをつくります。また、廊下ですれ違ったときに自然に会釈ができる姿からも、相手を大切にする気持ちが伝わってきます。

あいさつは、相手からされるのを待つのではなく、自分から関係を築く第一歩です。一人一人のあいさつが、学級や学校の温かな雰囲気をつくります。ぜひ、自分からあいさつを発信し、「あなたを大切に思っています」という気持ちを伝えてほしいと思います。